

ひとみ

発行
相生市教育委員会
(人権教育推進室)
電話23-7145
平成26年8月号
(第22号)

平成26年度人権教育・啓発活動年間テーマ
「みんなちがって みんないい」
(多様性の容認=違いを認め合う)

8月は「人権文化をすすめる
県民運動」推進強調月間です

多様性クイズ

形も色も多種多様な花火が夜空を彩る花火大会は、夏の風物詩ですね。今回は多様なものに関するクイズです。



絵：立巳 理恵

Q1 今年（平成26年）の相生パーロン祭り協賛花火大会では、何種類の花火が打ち上げられたでしょう？

- ①約10種類 ②約100種類 ③約500種類

(ヒント:全部で約5,000発の花火が打ち上げられました)

⇒ 答えは、2ページ

Q2 相生市が面する瀬戸内海には、何種類ぐらいの魚類が生息しているでしょう？

- ①40種類 ②400種類 ③4000種類

⇒ 答えは、2ページ

Q3 相生市立図書館には何冊の本があるでしょう？

- ①約1万冊 ②約5万冊 ③約10万冊

⇒ 答えは、8ページ

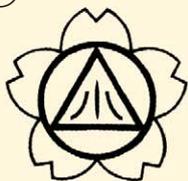
Q4 下のマークはどここの学校の校章でしょう？

(市内にある計10の小学校、中学校の校章です)



2013年大会の様子

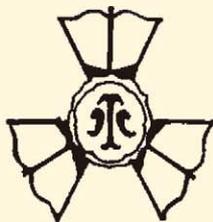
①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⇒ 答えは、2ページ

多様性クイズの答え

《Q1の答え》 ③約100種類

打ち上げ花火の主なものとして、「菊」「牡丹」と呼ばれる種類が全体の約7割を占めるということです。

その他、「スマイル」「ハート」に加え、「ど根性大根の大ちゃん」「かかしのかっちゃん」「タコ」「イカ」などの型物花火も打ち上げられ、賑やかでした。

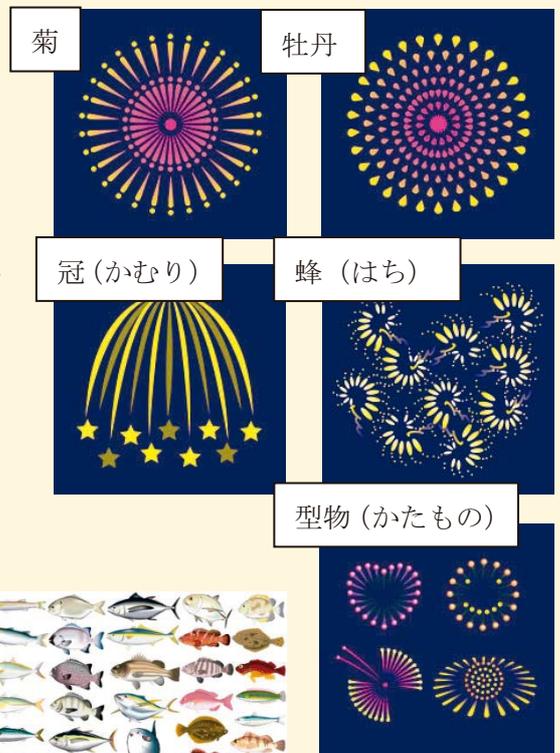
花火の大きさも、小さいものから外径約11cmほどの4号玉まで大きさの違う花火が打ち上げられているそうです。

動画配信サイト「YOU Tube」では「相生海上花火大会2014」で映像が流れています。

《Q2の答え》 ②約400種類

瀬戸内海にはマダイ、アナゴ、カキ、タコ、フグ、イカナゴ、ハマチ、キス、メバル、カレイ、サワラなど400種を超える魚類を始め、多くの水生生物が様々な生態をもって生息しています。

「せとうちネット」（環境省）より



《Q4の答え》

- ①若狭野小学校 ②中央小学校 ③矢野小学校 ④双葉小学校 ⑤青葉台小学校
⑥那波中学校 ⑦那波小学校 ⑧矢野川中学校 ⑨双葉中学校 ⑩相生小学校

校名をデザイン化した校章が多く、ユニークでそれぞれ美しい趣のある校章となっています。母校の校章を見て、懐かしく思い出される方もおられることと思います。



②は、漢字の「中」「央」が円状に
⑦は左写真のように、那波の祭りのだんじりにも同様のマークがあるそうです。片仮名の「ナ」と「ハ」が組み合わさっています。
⑩は相生の「生」の字が組み込まれています。

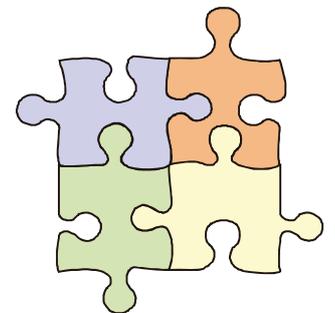
多様性を認めるカラフルな社会へ

違いを認めないことによって、差別は始まるといえます。人はそれぞれ違うものなのに、違うというだけでその人を排除してしまう傾向が人間にはあります。

ものの多様さや違いは、認めやすいものです。その寛容さを人に対しても同じように持てるようになりたいものです。

21世紀のキーワードの一つに、「多様性」＝「ダイバーシティ」が挙げられています。「ダイバーシティ」とは、企業や組織で使われている積極的多様性のことで、一人ひとりが持つ違いや共通点を認め合い、それを活かすことで組織が活性化するという考え方です。

「人間もジグソーパズルみたいに同じように見えても、一人ひとり違う。違うからこそ、組み合わせると面白い」「異なるものは間違いであるから排除する」のではなく、「異なるものと共生すると幸せになる」。存在をありのままに認め合う文化を推進したいものです。

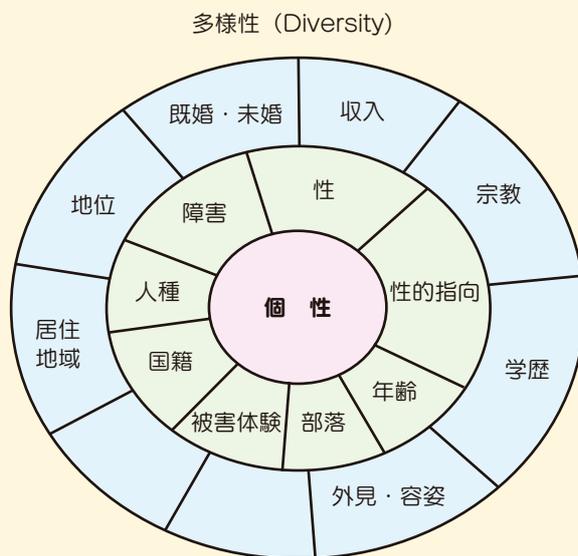


図の円はもろもろの多様性を表わしています。人種や国籍、性別、年齢、障がいのあるなし…といった自分の意志や努力では変えることのむずかしい違いが（中円部分）あります。また、学歴、収入、地位、外見、宗教の違い（外円部分）もあります。

わたしという個性は、こうしたさまざまな要素の集合体でできています。男である、女である、障がいがある、ない、〇〇国人である、太っている、やせている、などいずれもわたしの個性の一つです。にもかかわらずその構成要素の一つでしか判断されない、その一つだけが強調されると、他人から偏見を受け、差別されたと感じることになります。

「人権」とは、「人は皆その尊さにおいて、平等だ」という考え方です。すべての人の尊さと存在の価値の重さは平等ですが、人は皆同じではありません。つまり、「多様性」とは、人は皆その価値において、等しく尊いという人権概念を核にして、さらに人は皆ちがうからこそ尊いという認識に立つ考え方であると思われます。

「多様性トレーニングガイド」（森田ゆり著、解放出版社）参照



※空欄は各自で考えて入れる。

by Yuri Morita



からだの かたちからして ちがうでしょ。
大きい人 小さい人 中ぐらいの人。
だけど 生まれた時 小さいのは みんな 同じ。

はだの 色も ちがうし

ほら 目だって。

いろいろな かたちの はな。

顔 □ 耳…みんな ちがう。

かみの毛も まっ白から まっ黒まで 色が ある…。
あと まっすぐなのや ちぢれているのや。
かみが ぜんぜん ない人も たくさん いるしね。

人間って おもしろいね。パーマを かけたがったり
まっすぐな かみに したがったり。

「せかいのひとびと」（評論社）の一節
作者 ピーター・スピア 翻訳者 松川 真弓

さて、この情報紙「ひとみ」の紙の色をみなさんは、何色と言いますか？

よく言われるのが「肌色」です。最近の絵の具には、人種差別に対する問題意識から、人種・個人差・日焼けの度合いによって肌の色は異なるのに特定の色を肌色と規定する事はおかしい、としてこの呼称を避ける動きがあり、クレヨン、クーピーペンシル、絵の具などでは肌色を薄橙（うすだいだい）・パールオレンジ（pale orange）等と言い換える場合があります。日本では、2000年前後から大手文具メーカーが協議の結果として「肌色」という呼称の使用を取りやめるようになり、2005年から2006年頃には全てのクレヨンからこの呼称が撤廃されています。

「まちかどじんけん特派員」からのお便り



①「会釈する人が増えてきている」

昨年度から「相生市さわやかあいさつ運動」が市内全域で進められております。私もお近所の人はもちろん、勤め先などで出会った人にはあいさつもしくは会釈を心がけています。

そうしていると、最近、心なしかにこやかに頭を下げて、会釈をしてくださる人が増えているように思います。

自分がそう心がけているからそう感じるのかも知れませんが…。なんだか嬉しい気分になります。さらにこのさりげないつながりが広がっていくといいなと感じています。

(市内在住50歳男性より)



②「ちょっとした手助け」

あれは初夏を迎える夕暮れ時でした。市内中心部の交差点にさしかかった時、信号は赤で小学校低学年ぐらいの2人組が子ども用の自転車に乗り、向い側で待っていました。

信号は赤から青へと変わる。子どもたちがペダルを踏み出そうとすると、乗用車が左に曲がってくる。子どもたちはあわてて立ち止まるが、次から次へと車が续く。子どもたちは横断歩道の上で、立ち往生したまま…。

その時、中年の男性が、さっと車の前に手を広げ、立ちつくしていた子どもたちを渡らせる。

無事反対側へ渡りきった後、子どもたちは、そのおじさんに「ありがとう」を言い、手を振って過ぎ去っていった。

私も含めて、その場で見守っていた数名の歩行者も安堵の表情を浮かべ、思わず顔を合わせちょっと笑顔となった。(市内在住70才男性より)



挿絵：濱本幸男さん(市内在住)

上記のような、まちかどの「心あたたまる」出来事、ほっとな情報をご紹介ください。

ご連絡方法は手紙、FAX、メールでお願いします。ご応募いただいた方には、粗品(啓発用品)を進呈いたします。

《連絡先》 〒678-0031 相生市旭一丁目3番18号

FAX 0791-23-7148 メール jinkenkyoiku@city.aioi.hyogo.jp

「2014年こころカレンダー」より



平成25年度
人権標語入選作品

咲かせよう

笑顔あふれる

友情の花

那波小学校

今井 宙

『だれもがくらしやすい町づくり』

相生小学校 5年 三徳 幸穂

4年生の総合的な時間で『やったる Day』でおおの家と交流しました。

『やったる Day』は、地域に出かけて行き、私たちができることを考え、何か役立つことに挑戦しようという学習でした。

初めての交流会では、

「どうして、この人はしてくれないのだろう。どうして覚えてくれないのだろう。」と、心の中で思っていました。

しかし、それは、まちがっているんだと、お年よりと交流していくうちに気づきました。

私たちは、認知症サポーター講座（※1）を受けました。その時、考え方がひとつ、変わりました。お年よりを守ろうとする方々を見て、かっこいいなと心から感心しました。「オレンジリング」（※2）をもらって、私もお年よりを守る一員となったのだから、「どうして」ではなく、「だから守るのだ」という考え方をしようと決めました。

そして2回目の交流会は運動会。私たちがひとつ競技を考えました。「どうしたらお年よりがやりやすいか」を最ゆう先に考えました。

「この方がやりやすいよ。」

「私たちとペアでするほうが喜んでくれるんじゃないかな。」

「くじ引きの色は見やすいようにオレンジにしよう。」

などの意見をまとめて、とっても思いがこもった競技になりました。「バリアフリー」という言葉がぴったりだと思いました。

運動会は大成功。私たちが考えた、お年よりとペアで玉をかごに乗せて運ぶ競技『ペアで協力！玉運び』は、大もりあがり。人を喜ばせるのはこんなに気持ちがいいんだと思いました。そして、うれしい時の顔は、お年よりも大人も子どもも同じなんだなあと思いました。

これからも、だれもがくらしやすく、幸せになれる町をつくっていきます。

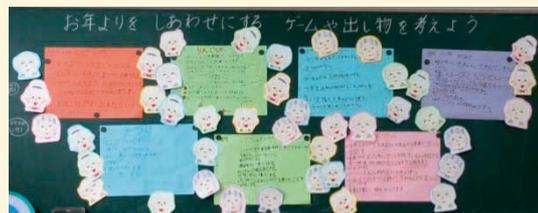
※1：認知症サポーター：認知症について正しい知識をもち、認知症の人と家族を温かく見守る応援者です。

※2：オレンジリング：認知症の人を支援する目印となるリングで、認知症サポーターに渡されます。



相生小学校は、平成 22・23 年度西播磨地区人権・同和教育研究協議会ならびに相生市教育委員会の研究指定を受け、人権教育の研究実践を進めました。その後も、地域に根差した体験活動を重視した教育実践に取り組んでいます。平成 25 年度には、西播磨地区また兵庫県中央大会でその取組を「高齢者の人権と福祉」をテーマに報告されました。子どもたちはお年寄りのみなさんに喜んでいただけることを考え、それを「しあわせポイント」としてたくさんの工夫を話し合ったそうです。

本年度も、継続して相生市社会福祉協議会の方を講師としてお招きし、「認知症サポーター研修会」を実施したそうです。子どもたちなりに、認知症について「正しく知る」ことにつながる重要な学習であり、これからの生活にも活かされていくことだと思います。



「のじぎく文芸賞」作品募集中

～あなたの思いを作品に書いてみませんか～

募集部門／詩、随想(手記・作文を含む)、小説、創作童話

応募条件／兵庫県内に在住、在勤、在学の方

応募作品／インターネット上を含む未発表・未投稿の自作作品に限ります。

※副賞もありますので詳細については兵庫県人権啓発協会ホームページをご覧ください
電話(078-242-5355)

応募方法／郵送に限ります 9月10日(水)締め切り(消印有効)

〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15

県立のじぎく会館内(公財)兵庫県人権啓発協会「のじぎく文芸賞」係



相生市小・中・高校生人権作品の募集について

相生市教育委員会・法務省では、「人と人がどれだけ優しくつながり合えるか、きずなを深めていくために、つつい自分中心になりがちな考え方を見つめ、乗り越えなければならないこと、大切にしないといけないこと」を表現することによって温かな人権感覚を養うことをめざし、毎年「標語(小学校5年生以上・中・高校生)、作文(小・中・高校生)、ポスター(小・中校生)、書道(小学校3年生以上)」の募集を行っています。

夏休み明けに審査を行う予定です。夏休み期間にご家族でじっくりとい作品づくりに挑戦してみてください。

のじぎく文芸賞・相生市人権作品の題材

- 人の優しさや思いやり、支え合うことのすばらしさが描かれているもの
- 一人ひとりを大切に、心豊かな社会づくりの姿勢が描かれているもの
- 生命や人権の尊さ、大切さが描かれているもの
- 人権課題の解決に向けて、明るい展望をもって描かれているもの



平成25年度特選作品
那波中学校 3年
由田 梨緒

最近の人権にかかわるニュースをご存知ですか？

「スポーツ界での差別問題」

今年の4月頃、プロスポーツ界での差別行為が注目されました。スペインのサッカーの試合で、黒人選手に客席からバナナが投げ込まれました。サルのように扱った大変ひどい行為です。選手はそのバナナを食べるというユーモアで切り返しました。その後、選手の無言の抗議に共感する「バナナの輪」(*)の動きは世界中に広がりました。

また、アメリカのプロバスケットボール協会でも黒人に対する差別発言がネット上で明らかになり、大きな問題となりました。日本でも3月にサッカーのJリーグの試合会場に「JAPANESE ONLY(日本人だけ入場可)」という垂れ幕が掲げられ、人種・民族を理由にした差別の問題が浮き彫りになりました。



挿絵：濱本幸男さん(市内在住)

※多くのスター選手がバナナを持った写真をインターネットに載せて差別反対を訴える輪を広げた

「おとなの人権教室」



教科書の記載内容も変わってきています

江戸時代の身分制度について、かつては社会科の学習において、「土農工商」の表現を使い、時にはピラミッドを描いて縦に並べて、「江戸時代の身分制度は土農工商」「差別をされた人々はその下の底辺に置かれていた」と学んでいました。

しかし、今は、小学校・中学校の社会科の教科書から「土農工商」という言葉や「さらに低い身分をおいた」という記述は消えています。つまり、「土農工商」は江戸時代の現実の身分制度を表わすものではなかったのです。

今、教科書では、江戸時代の身分を「土農工商」ではなく、「農民（百姓）」「町人」「武士」で表わしています。また、差別された人たちは、「農民や町人とは異なる身分とされた人びと」と表記されています。

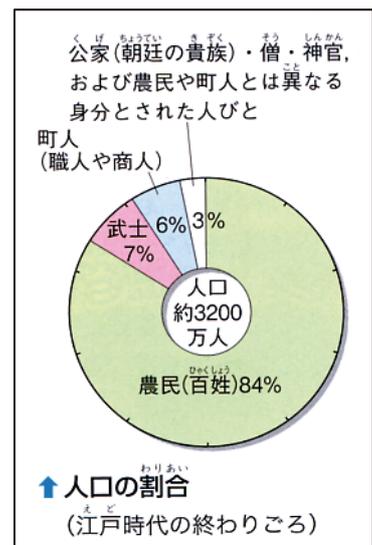
近年の部落史の研究により、経済的観点から見れば、江戸時代の部落が全て低位に置かれていたとは言えないことがわかってきました。苗字・帯刀を許された者や新田開発等により周辺の農村を上回る経済力をもっていた村もありました。

部落が経済的低位におかれたのはむしろ明治以降で、資本主義経済が発展する過程で、近世の差別意識と結びつきながら低位におとしめられたものであると考えられます。

『新しい部落史に学ぶ授業の創造「人権教育の手引き」ダイジェスト版』

(人権教育の手引き編集委員会・たつの市民民主化推進協議会編集、たつの市教育委員会発行)参照

「土農工商」



<現在課題となっている同和問題>

●インターネットによる差別表現

インターネットの普及に伴い、特定の地区を同和問題に関連した地区として、その地区の名称や映像をネットに流通させたり、公共の場に差別的な内容の落書きをするなど、差別を助長させる行為が依然として発生しています。これらは、誰が書いたかわかりにくいという匿名性の高さを悪用して、誤った差別意識を広めてしまう許されない行為です。

●身元調査

2005(平成17)年に兵庫県において、ある行政書士が興信所等からの依頼を受けて不正に戸籍謄本等を入手した事実が発覚。また同様の事件も発覚しています。このような不正行為はプライバシーの侵害であるとともに、重大な人権侵害につながりかねません。不正取得にもとづく身元調査により、本人の資質とは直接関係のない出身地や家族の状況などから調べられ、それが結婚差別や就職差別につながることは極めて不合理なことであり、このような戸籍謄本等の不正取得を防止するため、「本人通知制度」を相生市も平成25年度から導入しています。

●土地差別調査

2007(平成19)年に、大阪府において、マンション等の開発業者から土地調査の依頼を受けたりサーチ会社が、同和地区の地域について「不人気地域」「敬遠されるエリア」など差別的表現で報告していたことが発覚しました。また、同和地区の所在について宅地建物取引業者や自治体の窓口等への問い合わせが今もあるといわれています。これは偏見や差別意識が根強く残っている表れであり、粘り強い啓発が必要です。

●エセ同和行為

エセ同和行為とは、同和問題を口実にして、不当な寄付を募ったり、高額な書籍を売りつけたりする不当な要求行為をいいます。これは同和問題に対する誤った意識を植え付け、新たな差別意識を生む大きな要因となっています。エセ同和行為をなくすためには、同和問題について正しく理解するとともに、不当な要求を毅然とした態度で拒否することが大切です。

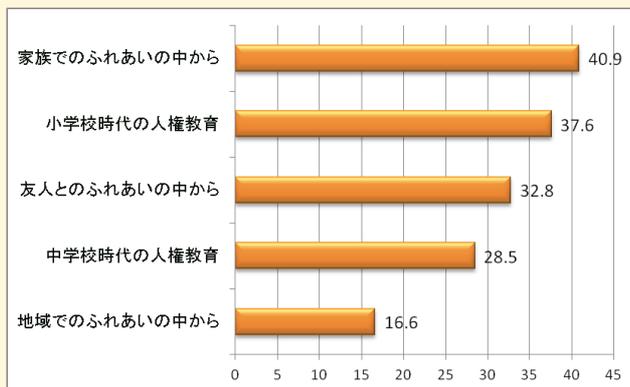
人権尊重の考えに影響を受けたもの

「“人権”の問題は、“人間”の問題」。私たち一人ひとりが生きていく日々の中に存在します。気づかずにいると、知らず知らずのうちに他者の人権を侵害してしまうこともあります。そして、人権に対する意識の基盤は、家庭の中で育まれていきます。

「ちがい」を認め合う心を育てていくのにこの絵本はいかがでしょう。

問い：人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思うもの(○はいくつでも)

「人権に関する県民意識調査」(平成25年度兵庫県・兵庫県人権啓発協会実施)より



「さっちゃんのまほう」

たばた せいいち著(楷成社)

先天的に右手の指がないさっちゃんの悲しみと悔しさ、そして成長の様子がえがかれています。



「くれよんのくろくん」

なかや みわ著(童心社)

みんなと同じでなくても、自分の個性を活かせるって素晴らしいことだと読み終わって心温まる絵本



「みえないってどんなこと？」

星川ひろ子著(岩崎書店)

アイマスクをした遊びなどを通じて、全盲のめぐみさんとふれ合う「心で見る」ワークショップから生まれた写真絵本



「しろくまちゃんのほっとけき」

わかやま けん著(こぐま社)

特殊な印刷がほどこされているので、ホットケーキが焼けていく様子も触ってわかるようになっています。



「みんなおなじでも

みんなちがう」(福音館書店)

奥井一満著

アサリはそれぞれ違う模様をもっています。同じ種類でも個性ある生き物を並べた写真集



「みんなのかお」(福音館書店)

戸田杏子・さとうあきら著

24種の哺乳類をそれぞれ21匹ずつ、日本中の動物園を巡って撮った写真絵本

《Q3の答え》 ③約10万冊(平成26年5月末現在、本館のみ)

そのうち、児童書は約27,000冊(紙芝居も含む)です。また、絵本は7,700冊ほどあります。

本は、多様な考え方、生き方に出会うチャンスを与えてくれます。この夏、子どもも大人も多くの本に触れる機会をつくってみませんか。

上記で紹介しているいずれの本も相生市立図書館に所蔵されています。